

ヒマワリ



建設情報誌

C-net通信

Construction

Vol.540

さが

『C-net通信』で **検索**

2021年8月4日
(毎週水曜日発行)

<http://www.nsci.co.jp>

発行所：(株) NSC 佐賀市日の出1丁目16-19
TEL 0952・97・9643 FAX 0952・97・9647

日本建設技術グループ

研究成果発表会を開催

原社長 時代の変化に対応

日本建設技術(株)(原裕社長)グループは24日、唐津市の唐津シーサイドホテルで2021年度(第17回)の研究成果発表会を開催した。同社やグループ会社の社員、来賓を含めて約110人が参加。路面の温度を低下させるFWG・透保水性舗装工法、水質浄化の取り組み、ため池耐震照査の解析に関する成果発表などが行われた。

研究成果発表会は毎年4月に開催しているが、20年度は新型コロナウイルス感染症拡大を受け中止。21年度は十分な感染予防対策を徹底した上で開催した。

冒頭、原社長は「変化の厳しい時代においては何事にも前向きに立ち向かっていく、挑戦する姿勢が大切だ。そういったことを常々考えながら取り組んでいけば、会社の経営は安定し技術力も向上していくと思う」と述べ、時代の変化に対応し、スマートな会社づくりを目指していくことを誓った。

このあと、リモート参加となった古川康衆議院議員のほか、岩永浩美元参議院議員、峰達郎唐津市長らがあいさつ。デジタル化やグリーン化への対応は時代の要請だとし、更なる進化を期待するなど述べた。

成果発表ではまず、原社長が「19・20年度のあゆみ、グリーンインフラとFWG・透保水性舗装工法」と題して講演を行った。同工法について路面温度を約17度低下させヒートアイランド現象を抑制する効果を示し、都市や気候の課題などを解決するグリーンインフラ、緑のプロムナードに有効なことを強調した。



あいさつする原裕社長

次に、金丸彦一郎・企画開発戦略本部技術研究所長が、ガラス廃材を再資源化したミラクルソルを水産養殖のろ過材に用いた「クリスタルバイオの水質浄化機能と活用事例」について発表。他のろ過材との比較試験データを示しながら、メンテナンスの容易性などを紹介した。

また、緒方宏和・建設&コンサルタント事業本部コンサルタント事業部第2グループ長が「ため池耐震照査における堤体下部堆積土の力学的評価に基づく調査・解析事例」を説明。調査結果を踏まえ、堤体下部堆積土の力学的評価も考慮した効果的な耐震照査が必要だと報告した。

続いて、同社やグループ会社で大きな業務成果を上げた功労者、労働安全管理者、資格取得者らの表彰のほか、新入社員の紹介も行われた。【7月27日HP掲載】